

令和6年度大阪大学大学院

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究科（博士後期課程） 学 生 募 集 要 項

教 育 目 標 及 び 各 ポ リ シ ー

【 教 育 目 標 】

大阪大学は、「知の創造、継承及び実践」を使命とし、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、学問の独立性と市民性を備えた世界水準の高度な教育研究を推進し、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目的とします。

その目的の実現のため、研究科及び全学的な教育組織において、

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
- 高度な教養
- 高度な国際性
- 高度なデザイン力

を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材の育成に取り組んでいます。

大阪大学の教育目標を受けて、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（博士後期課程）では、医学、心理学、保健学/看護学、教育学及びそれらを基盤とする学際領域を対象とし、国際的視点も有する教員、研究者が各々の専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて教育にあたり、異なる出身履歴を持つ学生が共に学び研究することにより、真に学際的で、柔軟な発想のもと、「子どものこころの障がい」に、最先端かつ高度な専門性と深い学識をもって対応でき、国内外の社会の新たな要求にも応えうるリーダーたる研究者・指導者層、高度専門家の育成を目指しています。

【 デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 】

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属研究科において定める専門分野に関する高度な知識・技能、教養、国際性及びデザイン力を身につけ、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で審査及び試験に合格した学生に学位を授与します。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（博士後期課程）では、以下を身につけた学生に、修了要件に基づき審査等を行い、学位「博士（小児発達学）(Doctor of Philosophy in Child Development)」を授与します。

- (1) 「子どものこころと脳発達及びその障がい」に関する高度な知識・技能と、本質を見極め課題解決にその知識・技能を活用できる深い学識
- (2) 子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、異なる背景の専門性を抛りどころとする幅広い知識と複眼的・俯瞰的に思考し、客観的に評価できる科学的視点
- (3) 社会・学問における本質的かつ複雑多様な課題を発見し、様々な分野の人と協働して、意欲的に解決の道筋を構想することのできる高度なデザイン力
- (4) 協調性・柔軟性を有する真に学際的で現在の社会の要求に応えうるリーダーシップ
- (5) 異なる言語・文化を深く理解し、それらの相違を超え、広く交流しながら、高度で幅広い知識をもって、複眼的・俯瞰的に思考し、多角的に評価できる国際性及び高度な教養

修了要件

- (1) 本研究科に3年以上在学し、授業科目につき30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科が行う博士論文の審査に合格すること。
- (2) 博士論文は、研究科が刊行する機関誌又は査読付きの学術誌等に掲載されたものであって、申請者が筆頭著者であり、共著者が学位申請（予定）していないものに限る。
- (3) 必要となる論文の本数は、英文の場合は1本、和文の場合は2本とし、研究科入学後の業績によるものとする。
- (4) 特に優れた研究業績を挙げた者と教授会において認められた場合には、2年6月での修了を可としている。

【カリキュラム・ポリシー】

大阪大学は、学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能などを修得させるために、専攻分野に関する科目並びに高度教養教育及び国際性涵養教育に関する高度な授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業と優れた研究指導を行います。また、試験や審査などにより学修成果を厳格に評価します。

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所（博士後期課程）では、異なるバックグラウンドを持つ学生に文理融合プラットフォームによる教育を実施し、文化を超えた世界的課題でもある「子どものこころの障がい」に対応できる国際的にも通用する幅広い視野と基礎知識を身につけ、また、専攻分野に関連する諸領域の学識及び基礎的研究技術を修得できるよう指導を行います。

授業は、基礎学力を担保するための講義形式の導入科目、支援や研究の現場において実践的学習を行う演習科目、論文作成を目指す高度専門科目（研究指導）からなり、他大学で開講される導入科目はTV会議システムにて受講し、演習科目では開講される大学へ移動して受講することにより、非常に広汎な知識の修得を目指します。さらに高度専門科目では、博士論文をまとめるため、選択した研究課題について取り組み、指導教員からの最先端かつ高度な知識をもって良質な指導を受けます。

(1) 導入科目（配当年次D1）

異なるバックグラウンドを持つ学生に対して、D2～D3に行う演習科目や高度専門科目における基礎学力を担保するために講義形式をD1に設定します。

(2) 演習科目（配当年次D2）

実際に開講される大学に赴き受講し、また、高度臨床・研究の実践の場やカンファレンスにも参加します。

(3) 高度専門科目（配当年次D2～D3）

各講座の指導教員の下で、定期的に講座のゼミナールに出席して専門知識を深めると同時に、選択した研究課題について臨床・基礎研究を行って、博士論文をまとめます。

単位認定については、授業の出席状況をはじめ、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定しています。また、5大学合同の研究発表会への出席・発表が単位認定に必須です。

【アドミッション・ポリシー】

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、学士課程又は修士課程・専門職課程における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を有し、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を広く受け入れます。このような学生を適正に選抜するために、研究科・専攻等の募集単位ごとに、多様な観点からの評価を行います。

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所（博士後期課程）では、強い学習意欲と優れた学力を有し、かつ、子どものこころの課題の解決に対して強い使命感と真摯な姿勢を持った以下のような人材を求めています。

- (1) 子どものこころの課題に関して明確な目的意識を持ち、国際的に通用する水準の科学的な対処法の発見により我が国の未来に貢献しようという高い志を持つ人。
- (2) 経験則にとらわれず、異なる背景の専門家に対してもオープンな姿勢を保ち、新たな科学的視点を持つことを希求する人。
- (3) 生涯を通じて学習意欲を持続し、自立的・意欲的な問題解決能力を有する人。
- (4) 問題を抱える子どもの支援ネットワークのリーダーになるべく、協調性・柔軟性のある思考ができ、社会性を備え、社会的弱者に対して深い共感性と洞察力をもって接することができる人。

また、入学選抜の基本方針として、統一した入学試験を以下により行います。

①外部の外国語（英語）試験スコア等の準用

外部の外国語（英語）試験のスコア等を準用し、学術論文作成に必要な素養等を考査します。

②口述試験

将来どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、また、同問題に関する意欲、熱意、将来性を評価すると同時に、コミュニケーション力、論理的思考力等を考査します。

1. 専攻及び募集人員

専攻：小児発達学

募集人員：15名

講座名	受入数
こころの発達神経科学講座（大阪大学）	3名
こころの相互認知科学講座（金沢大学）	3名
こころの発達健康科学講座（浜松医科大学）	3名
こころの認知行動科学講座（千葉大学）	3名
こころの形成発達科学講座（福井大学）	3名

※ 各講座（大学）への受入数は、目安として設定しているものです。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を取得した者及び令和6年3月までに取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び令和6年3月までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び令和6年3月までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者及び令和6年3月までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を取得した者及び令和6年3月までに取得見込みの者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣が指定した者（平成元年文部省告示118号）
 - ① 大学を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(8) 次の経歴を有する者等で、本研究科において個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を取得した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和6年3月31日までに24歳に達している者

① 医学部（医学科）、歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）（修業年限が6年であるものに限る。）及び獣医学の学部に相当する課程を卒業した者及び令和6年3月までに卒業見込みの者

② 大学を卒業し、スクールカウンセラー、学校教諭（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）、看護師又は臨床心理士等として5年程度の経験を持つ者

③ 外国の大学の医学部（医学科）、歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学の学部に相当する課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得した者及び令和6年3月までに取得見込みの者

④ 外国の大学の課程又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の大学の課程を修了した後、学士の学位に相当する学位を取得し、かつ、スクールカウンセラー、学校教諭（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）、看護師又は臨床心理士等として5年程度の経験を持つ者

※「2. 出願資格（7）、（8）」で出願を希望する者は、「3. 出願資格審査」をご覧ください。

※「2. 出願資格（8）」において、「大学を卒業」及び「外国の大学の課程又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の大学の課程を修了した後、学士の学位に相当する学位を取得した者には、下表に掲げる最終学歴及び実務経験の期間を有する者を含みます。

最 終 学 歴	実 務 経 験 の 期 間(注)
(ア) 修業年限2年の短期大学の卒業生	2年以上
(イ) 修業年限3年の短期大学の卒業生	1年以上
(ウ) 高等専門学校の卒業生	2年以上
(エ) 修業年限が2年以上の専修学校の専門課程の卒業生	大学の修業年限（4年）から専門課程を置く専修学校の修業年限を控除した期間以上
(オ) 外国の大学の日本校、外国人学校、専修学校（専門課程を除く）、各種学校その他国内外の教育施設の卒業又は修了者	日本の大学卒業までの最短修業年数（16年）から、最終学校卒業又は修了までの最短修業年数（入学資格を同一とする学校を複数卒業又は修了している場合は、修業年限の最長のもののみ採用。）を控除した期間以上
(カ) 上記（ア）から（オ）までに掲げる学校の退学者	日本の大学卒業までの最短修業年数（16年）から、当該退学した学校の退学時までの修業年数を控除した期間以上。ただし、退学時までの標準履修単位（時間）数を修得していない場合は、修得単位（時間）数の相当年数を以って修業した年数とする。

(注) 実務経験の期間とは、次の期間を合算したものをいいます。

- (A) 大学又は短期大学において、研究生として在学した期間
- (B) 短期大学又は高等専門学校に置かれた専攻科に在学した期間
- (C) 大学、短期大学、官公庁、研究所、会社等において、教育又は研究部門で教育職又は研究職に従事した期間
- (D) その他、上記（A）、（B）、（C）に準じた期間

3. 出願資格審査

上記出願資格の（7）及び（8）に該当する者に対しては、出願に先立ち、個別の出願資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力の有無に関する認定審査を実施します。

出願資格審査は、書類審査及び面接を実施し、合格した者が入学試験に出願することができます。

（1） 出願資格審査日程等（出願資格（7）及び（8）に共通）

① 受付期間

【第1回入試】令和5年 6月19日（月）～ 6月30日（金）

【第2回入試】令和5年10月16日（月）～ 10月27日（金）

② 書類の受付場所

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当（電話06-6879-3026、3445）

※ 郵送（簡易書留）の場合は、第1回入試は令和5年6月30日（金）、第2回入試は令和5年10月27日（金）までの消印のあるものにより受付期間後の到着でも受理します。

※ 持参される際の受付時間は、8時30分～12時00分、13時00分～17時15分の間としています。（土・日・祝日を除く。）

（2） 出願資格審査必要書類

所定様式は、本研究科ウェブサイトよりダウンロードしてください。

(<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>)

① 出願資格審査申請書（所定様式）

② 受験票・写真票（所定様式）

③ 研究計画書（志望理由書）（所定様式）

④ 研究業績調書（所定様式）（研究歴のない方は必要ありません。）

⑤ 研究論文（研究歴のない方は必要ありません。）

⑥ 出身学校の卒業証明書及び成績証明書

⑦ 実務経験の期間を証明する在職期間証明書

⑧ 返信用封筒（定型封筒（長形3号）に244円分の切手貼付・受験票送付用）

※ 受験票は、第1回入試は令和5年7月7日（金）頃、第2回入試は令和5年11月2日（木）頃に到着するように発送する予定です。

※ 第1回入試は令和5年7月11日（火）、第2回入試は令和5年11月7日（火）時点で受験票が到着していない場合は、翌水曜日に大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当（電話06-6879-3026、3445）へ必ず連絡してください。

※ 改姓（改名）により、卒業証明書及び成績証明書等の氏名が異なっている場合は、変更の事実を証明できるものを同封ください。（受験票送付の際に返却します。）

（3） 出願資格審査面接試験

① 日時：【第1回入試】令和5年 7月20日（木）13時30分～

【第2回入試】令和5年11月16日（木）13時30分～

※時間は変更となる場合があります。

② 場所：志望する研究領域が置かれている大学で実施

〔大阪大学〕 医学部医学科共通棟に集合

医学部の所在地は、以下を参照願います。

(<https://www.med.osaka-u.ac.jp/access/access>)

- [金沢大学] 宝町キャンパス医薬保健学域医学類B棟1階小会議室に集合
医学類 B 棟の所在地は、以下を参照願います。
(<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/index.html>)
- [浜松医科大学] 講義実習棟 1 階学務課事務室に集合
講義実習棟の所在地は、以下を参照願います。
(<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/campusmap.html>)
- [千葉大学] 亥鼻キャンパス医薬系総合研究棟Ⅱ期棟7F 710号室に集合
研究棟Ⅱ期棟の所在地は、以下を参照願います。
(<https://www.m.chiba-u.ac.jp/class/rccmd/outline/access.html>)
- [福井大学] 松岡キャンパス看護学科棟 3 階
大学院講義室に集合
松岡キャンパスの所在地は、以下を参照願います。
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/data/access/)

※ 面接を受けない場合、出願資格審査は不合格となります。

※ 各研究領域の研究内容については、P. 13「連合小児発達学研究科の概要」を参照してください。

(4) 出願資格審査合格者発表

【第1回入試】令和5年 8月 7日 (月) 13時30分

【第2回入試】令和5年12月11日 (月) 13時30分

※ 本研究科ウェブサイトに出願資格審査合格者の受験番号を掲載するとともに、出願資格審査可否通知書を送付します。電話での可否の照会には一切応じません。

(<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>)

4. 出願書類等

【出願書類に関する注意事項】

- ・ 本研究科所定の出願書類 (* 印) は、本研究科ウェブサイトよりダウンロードしてください。
(<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>)
- ・ 本研究科所定様式は、A 4サイズの白い普通紙に片面印刷してください。
- ・ 検定料振込依頼書のみ、下記までメールにてご請求ください。
請求先：大阪大学医学系研究科連合研究科担当 <<office@ugscd.osaka-u.ac.jp>>
- ・ 書類はすべて**原本**を提出してください。
- ・ 提出された書類は返却しません。
- ・ 第1回入試不合格者で、第2回入試に出願する場合は、全ての出願書類を改めて提出する必要があります。第1回入試の出願書類を流用することはできません。

・ 入 学 願 書	<<本研究科所定の様式 * >> ・ 銀行から収納印を受けた検定料納入証明書を所定欄に貼付してください。
・ 受 験 票 (※1) ・ 写 真 票	<<本研究科所定の様式 * >> ・ 出願前3ヶ月以内に撮影した志願者の写真 2 枚を本学所定の用紙に貼付してください。
・ 研究計画書 (志望理由書)	<<本研究科所定の様式 * >> ※ 本研究科ホームページからダウンロードした用紙に記述して提出することもできます。

<ul style="list-style-type: none"> 卒業（見込）証明書 修了（見込）証明書 （※2、3） 	<ul style="list-style-type: none"> 出身大学長等が作成したもの。 大学院修了（見込みを含む）者は、<u>学部と大学院の両方</u>を提出してください。 ※ 外国人留学生は、その他学位を証明する書類が必要になる場合があります。
<ul style="list-style-type: none"> 成績証明書（※2、3） 	<ul style="list-style-type: none"> 出身大学長等が作成して厳封したもの。 大学院修了（見込みを含む）者は、<u>学部と大学院の両方</u>を提出してください。
<ul style="list-style-type: none"> 外部の外国語（英語）試験のスコア等 	<ul style="list-style-type: none"> 《本研究科所定の様式 *》 本学所定の用紙「外部の外国語（英語）試験のスコア等（表紙）」に外部の外国語（英語）試験のスコアレポート、又は合格証明書等を添付し、ご提出ください。添付の上は、左上をホチキス留めしてください。 ※ 外部の外国語（英語）試験 Cambridge English、GTEC、GTEC CBT、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT[※]、 TOEIC L&R、TOEIC S&W、英検、英検CBT（令和3年3月以前の日付のもの）、英検S-CBT（令和3年4月以降の日付のもの）（※自宅受験のスコアは対象外です。但し、TOEFL iBTの自宅受験については対象とします。） ※ 出願時に証明書類を添付できない場合には、提出予定日を記載した上記用紙を提出してください。 なお、後日スコア等を提出する際も上記用紙に添付の上、提出してください。スコア等は、原則、出願時の提出ですが、外部試験の結果発送の日程によっては、本試験当日に持参いただき、受付窓口で提出することも可能です。また、この場合は、事前に研究科事務担当までご連絡ください。 ※ <u>本試験当日までにスコア等を提出できなかった場合、口述試験は受験できませんので、事前に手元に届く日を確認してください。</u>
<ul style="list-style-type: none"> 出願資格（6）に相当する審査合格確認（証明）書類 	<ul style="list-style-type: none"> 出願資格（6）で出願の者 出身大学長等が作成（署名）したもので、下記内容が記載されたもの 様式例：〇〇大学としては、本学の学生である〇〇〇〇氏は、「（審査名称）」に合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有する者であることを確認し、報告します。また、当該審査に関する以下の添付資料を同封します。 【資料例】 ・当該審査の合格の基準 ・当該審査の合格と当該大学における修士の学位の授与要件の関係を示す資料 ・当該審査に合格した者と当該大学に編入学した他の大学の修士の学位を有する者の当該大学における博士の学位を授与するプログラムにおける取扱いの関係を示す資料
<ul style="list-style-type: none"> 受験許可書（入学承諾書） 	<ul style="list-style-type: none"> 《本研究科所定の様式 *》 出願時において、官公庁、研究所、企業、病院等に勤務し、入学後もその職を有する者（社会人入学の者）
<ul style="list-style-type: none"> 在留カードの両面コピー（該当者のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> 既に渡日し、住民登録を行っている外国籍の者（特別永住者以外）は、在留資格、在留期間が記載されたものを提出してください。
<ul style="list-style-type: none"> 国費外国人留学生証明書 	<ul style="list-style-type: none"> 国費外国人留学生の者
<ul style="list-style-type: none"> 検定料納入証明書（※4） 	<ul style="list-style-type: none"> 《本研究科所定の様式》 所定の振込依頼書は、メールにて請求してください。 証明書に収納印を受けたものを入学願書の所定の欄に貼付してください。

・検 定 料 (※4、5)	<ul style="list-style-type: none"> ・30,000円 所定の振込依頼書にて、銀行窓口（ATM（現金自動預払機）は不可）で検定料を振り込んでください。（振込手数料は振込者負担です。） ※所定の振込依頼書は、メール（office@ugscd.osaka-u.ac.jp）にて請求してください。
・宛 名 票	≪本研究科所定の様式 *≫ <ul style="list-style-type: none"> ・入学手続き関係書類の送付等、大学からの連絡に使用します。 ・重要書類は書留郵便等にて送付しますので、確実に受け取りが可能な住所を記入してください。 ・あて名票には、確実に受け取りが可能な住所を記載し、出願後に住所変更等がある場合は速やかに大阪大学連合研究科担当に連絡してください。
・受 験 票 送 付 用 封 筒	≪本研究科所定の様式 *≫ ご自身で用意した定型封筒（長形3号）の表に、本研究科所定の「受験票送付用封筒ラベル」と、244円分の切手を貼付してください。
・出願書類チェックリスト ・出 願 書 類 送 付 用 封 筒	≪本研究科所定の様式 *≫ 署名のうえ提出してください。 ≪本研究科所定の様式 *≫ ご自身で用意した定型外封筒（角形2号）の表に、本研究科所定の「出願書類封筒ラベル」を添付し、出願書類を全て入れてください。

- ※1 受験票については、第1回入試は令和5年8月30日（水）、第2回入試は令和6年1月10日（水）に特定記録郵便で発送する予定です。
- ※2 改姓（改名）により、卒業証明書、成績証明書等の氏名が異なっている場合は、変更の事実を証明できるものを試験開始前に提示してください。
- ※3 出願資格審査を受けた者は、卒業証明書、成績証明書等を再提出する必要はありません。
- ※4 大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の大学院修士課程、博士前期課程、法科大学院又は教職大学院の課程を令和6年3月修了予定の者並びに国費外国人留学生として入学する予定の者については、検定料納入証明書の提出及び検定料は不要です。
- ※5 大阪大学ホームページに記載している災害により被災した志願者に対し、検定料免除の特別措置を講じます。
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/admissions/information>
 詳しくは上述ホームページを確認してください。この場合の出願については本要項に記載の連絡先に問い合わせてください。

5. 出願方法及び注意事項

入学志願者は、出願書類を取りそろえ、大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当へ持参又は郵送（簡易書留）してください。

願書受付期間：【第1回入試】令和5年 8月 7日（月）～ 8月18日（金）（土・日・祝日を除く）
 【第2回入試】令和5年12月11日（月）～12月22日（金）（土・日を除く）
 持参の場合の窓口受付：各日 8時30分～12時00分、13時00分～17時15分
 郵送の場合の送付先：〒565-0871 吹田市山田丘2-2
 大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当

- ※ 郵送（簡易書留）の場合は、第1回入試は令和5年8月18日（金）、第2回入試は令和5年12月22日（金）までの消印のあるものに限り受付期間後の到着でも受理します。
- ※ 志願者は出願に先立ち、下記期間中に研究科の概要（P13～P18）を参考に、志望する各研究領域の事前面談申込先に連絡をとり、事前面談を必ず受けてください。なお、事前面談に際しては各校所定様式を

事前にメール等により提出してください。但し、出願資格審査を受ける者は、事前面談を受ける必要はありません。（出願資格審査を受けて修士修了同等である旨合格した者でも、出願資格審査を受けた大学（研究領域）とは違う大学（研究領域）で本入試を出願する場合は、事前面談を受ける必要があります。）

入試事前面談受付期間：【第1回入試】令和5年 6月19日（月）～ 8月10日（木）（土・日・祝日を除く）
【第2回入試】令和5年10月16日（月）～12月15日（金）（土・日・祝日を除く）

6. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、研究計画書等を総合して行います。連合小児発達学研究所として統一した入学試験は以下のとおりです。

(1) 学力検査は、外部の外国語（英語）試験のスコア及び口述試験で行います。

①外部の外国語（英語）試験スコア等の準用

外部の外国語（英語）試験のスコア等を準用し、学術論文作成に必要な素養等を考査します。

準用するスコア等は、次の試験のものになります。なお、このスコア等の成績によって不合格とはなりません。

Cambridge English、GTEC^{*}、GTEC CBT^{*}、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT^{*}、TOEIC L&R、TOEIC S&W、英検、英検 CBT（令和3年3月以前の日付のもの）、英検 S-CBT（令和3年4月以降の日付のもの）（※自宅受験のスコアは対象外です。但し、TOEFL iBTの自宅受験については対象とします。）

②口述試験

研究計画書（志望理由書）に基づき、今後の研究計画等（今、構想している研究計画）についてプレゼンテーションしていただきます。

プレゼンテーション資料（後述の8. 口述試験【プレゼンテーション】で用意する資料）に基づき、将来どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、今後の研究計画等（今、構想している研究計画）について「背景」「研究の方法」「期待される結果」「学術的意義あるいは社会への波及効果」をプレゼンテーションしていただき、同問題に関する意欲、熱意、将来性を評価すると同時に、コミュニケーション力、論理的思考力等を考査します。

試験は、10分間プレゼンテーションした後、試験員から10分程度の質疑があります。

プレゼンテーションの時間は、厳守となります。

(2) 提出された書類（研究計画書等）等により考査します。

7. 口述試験【プレゼンテーション】の日時及び場所

【第1回入試】

日 時：令和5年 9月16日（土）14時00分～（13時00分集合）

場 所：大阪大学医学部医学科講義棟（予定）

【第2回入試】

日 時：令和6年 1月 27日（土）14時00分～（13時00分集合）

場 所：大阪大学医学部医学科講義棟（予定）

※ 試験場に入場する際、本人確認のため受験票を提示してください。

8. 口述試験【プレゼンテーション】で用意する資料

【第1回、第2回 共通】

下記資料を作成の上、印刷して持参し、口述試験会場で、受験者自らが試験員に配付してください。
必要部数は、6部です。

- ・使用言語：日本語、又は英語
- ・レジュメ：A4サイズ 縦方向 1枚 横書き 30行程度 フォントサイズは11ポイント程度
- ・スライド：A4サイズ 横方向 枚数は自由 内容は、パワーポイント等で作成してください。

・「レジュメ」「スライド」の順に組み、綴じ方は、レジュメの左側とスライドの上側が合うようにし、縦方向で左上をホチキスで留めてください。

※ この資料は、試験当日に持参いただきます。（出願時の提出物ではありません。）

※ パソコンは使用しません。

※ この資料は、返却いたしません。

〔上記資料作成上のポイント〕

(1) これまでの研究の背景、問題点で、それをどのようにして解決しようとしたかの方策を、期待される研究結果、その研究結果が社会へ及ぼす効果も合わせて記述してください。

(2) 研究計画

期待される結果を導き出すため、可能な限り具体的に試料の収集や分析の方法を説明する内容にしてください。

9. 合格者発表

次のとおり合格者の受験番号をホームページに掲載します。電話による可否の照会には一切応じません。

日 時	場 所
【第1回入試】 令和5年10月10日（火） 13時30分	大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究科ホームページ (http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/)
【第2回入試】 令和6年 2月 5日（月） 13時30分	

※ 出願者には可否通知書を、第1回入試は令和5年10月10日（火）、第2回入試は令和6年2月5日（月）頃に発送します。

10. 入学手続

入学手続は、令和6年3月上旬に行う予定です。入学手続関係資料は、合格者に対して令和6年2月中旬頃に、出願時に提出された宛名票記載の住所に郵送する予定です。

入学手続完了者には、3月下旬に入学式、ガイダンス等についての書類を郵送します。

11. 入学科及び授業料

入学科 282,000円（予定）

授業料〔前期・後期共に〕 267,900円（年額535,800円）（予定）

※ 入学手続に必要な経費は入学科のみです。前期分授業料は5月下旬（予定）、後期分は11月下旬（予定）に口座振替により納入することとなっています。

※ 入学科・授業料の金額については変更することがあります。

※ 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 大阪大学、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学及び福井大学の大学院修士課程、博士前期課程、法科大学院又は教職大学院の課程を、令和6年3月に修了予定の者並びに国費外国人留学生として入学する者については、入学科は不要です。

12. 長期履修制度

定まった職業を有する者、出産・育児・介護・病気や障がいに伴う療養等を行う必要のある者を対象に、最長4年間の在学年限で計画的に履修し、課程を修了することを認める制度です。

入学手続き時の申請に基づき、本研究科が審査し決定します。申請方法等の詳細については、合格者宛に別途通知します。

13. 優秀な私費外国人留学生に対する授業料免除制度（特待留学生授業料免除制度）

大阪大学では、研究力の強化と留学生の受入増進のために大学院入学試験において優秀であると認められる私費外国人留学生に対する授業料免除制度（特待留学生授業料免除）を実施しています。この入試（第1回入試に限る）は特待留学生授業料免除の対象となっております。本入試に合格し、優秀と認められた留学生は本制度による授業料免除の候補者となります。申請対象者は、以下のすべてに該当する者とし、出願願書の「外国人留学生記入欄」の項目にチェックを入れてください。

- ① 入学後の 在留資格が「留学」である者。
- ② 国費外国人留学生、外国政府派遣留学生等により授業料の支援を受けていない者。
- ③ 民間奨学金等により、授業料支援を目的とした授業料相当額の支援を受けていない者。

合格発表後、免除申請の結果をメールにて連絡します。

詳細は、本専攻ホームページに掲載している「優秀な私費外国人留学生に対する授業料免除制度」

(<https://www.ugscd-osaka-u.ne.jp/admission/menjo/.pdf>) を参照してください

なお、本研究科における優秀な留学生の基準は下記のとおりです。(1)の①～③のいずれか、及び(2)を満たす必要があります。また、本研究科における当該制度による免除枠は1名ですので、必ずしも基準を満たしている者全員が特待留学生となるわけではありません。

※特待留学生を希望する場合は、必ず第1回入試を受験するようにしてください。

(1) 英語

- ① 入学時点で英語におけるヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のB2 相当以上の資格・検定試験のスコアを有している者。

※CEFRとの対応については、各語学試験のウェブサイト等で確認すること。

(参考：CEFR B2=TOEFL iBT 72, IELTS 5.5,

TOEIC (Listening & Reading) 785(Listening400, Reading385))

- ② 日本の大学院修士課程・博士課程（前期）又は博士課程（後期）への入学資格を満たす教育課程を、英語を主要言語として修了した者。

- ③①相当以上の英語能力を有していると本研究科が判断できる者。

(2) 学生成績係数が直近の過去1年間で2.50以上であること。

※現課程の在籍期間が1年に満たない場合は、前課程まで遡って算出すること。

※係数の算出ができない場合は、所属大学等の研究科長レベル以上の推薦状（様式自由）に、現在の所属における成績順位が上位20%以内であることを記して提出すること。

14. 留意事項

- (1) 出願書類に虚偽の記載があれば、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (2) 障がい等のある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を希望する者は、出願時に大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当へ申し出てください。（電話連絡可）
- (3) 出願受付後の入学願書等の記載事項の変更は認めません。
- (4) 振込まれた検定料は次の場合を除き返還しません。

- ①出願したが、受験資格がなかった場合
- ②出願書類受付期間後に出願書類が到着し、受理できなかった場合
- ③出願書類に不備があり、受理されなかった場合
- ④検定料を払い込んだが、出願しなかった場合
- ⑤検定料を誤って二重に振り込んだ場合

※④、⑤の場合は、返還請求を行っていただきますので、下記までご連絡ください。

【連絡先】大阪大学医学系研究科総務課連合研究科担当

電話：06-6879-3026、3445 E-mail：office@ugscd.osaka-u.ac.jp

- (5) 受験のための宿泊施設等の斡旋はしません。
- (6) 自動車及び自動2輪車（原動機付自転車を含む）での構内への入構はできません。

15. 個人情報の取扱いについて

- (1) 出願時に提出された氏名、住所その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。

なお、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導）」、「学生支援関係（健康管理、奨学金申請・授業料免除、就職支援等）」及び「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。

(2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。

(3) 上記の業務を行うにあたり、一部の業務を外部の業者に委託する場合があります。

この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出された個人情報の全部または一部を提供します。

連合小児発達学研究所の概要

講座名(設置大学):こころの発達神経科学(大阪大学)

【事前面談申込先】 医学系研究科総務課連合研究科担当(4研究領域共通)

TEL:06-6879-3026,3445 FAX:06-6879-3347

E-mail:office@ugscd.osaka-u.ac.jp

<p>研究領域名: 小児発達神経学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの分子統御機構研究センター TEL・FAX:06-6879-3863 E-mail:office@kokoro.med.osaka-u.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 毛利育子 准教授、橘 雅弥 准教授</p> <p>(研究内容) 子どものこころの発達は、先天的に組み込まれたプログラムの基盤に、個々の遺伝的素因や、養育者との愛着形成、社会経済的な環境や疾病等による後天的な要因が、複雑に相互作用することにより規定される。例えば、極小未熟児生存児に注意欠如多動症(ADHD)や学習障がい等の発生が高いことや、重度の愛情剥奪体験がある子どもでは発達障がい類似の症状を示すことが知られている。従って、こころの問題だけを子どもの身体や環境から切り離して考えることはできない。さらに発達障がいと診断された場合にも、攻撃性が強い子ども、理解はしているが無言語の子ども、多動が著しく目立つ子ども等々一人一人の特色は異なる。我々は、カテゴリーカルに捉えるのではなく、個々の子供の特性を実行機能、認知機能や感覚処理等の脳機能に対応したディメンジョンにおいてとらえ、その発症メカニズム、治療、支援の研究を行う。</p> <p>我々の領域では、臨床を重視しながら神経科学的な観点から、①個々の子どものこころの発達とその障碍について脳画像や認知機能検査等を用いて脳科学的な視点から理解すること、②後天的な環境要因がどのように子どもの発達に影響を及ぼすかを、特に、睡眠との関連に重点をおいて調べることを目指す。また、近年神経炎症が自閉スペクトラム症の発症要因になっているデータが蓄積されてきており、ヒト脳画像と脳組織を用いた神経炎症仮説の検証、並びに、マウスを用いて、組織学的、分子生物学的な手法により、神経炎症がシナプス形成に与える影響の解析を行う。</p>	
<p>研究領域名: 子育て支援学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの分子統御機構研究センター TEL・FAX:06-6879-3863 E-mail:office@kokoro.med.osaka-u.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 藤野陽生 准教授、山本知加 助教</p> <p>(研究内容) 近年の子どものこころの問題や発達障がいへの注目により、障がいや課題を抱える子どもとその養育者や家族への支援の必要性が高まってきている。支援の現場においては、子どものこころの発達や親子の相互作用への理解とともに、発達障がいや対応の難しい子どもとその養育者への支援方法の習得が急務とされている。また昨今では子どもの特性のみならず、養育者の状況に応じた支援など、子どもだけでなく、子どもを取り巻く養育者やその家族、および学校へのアプローチ方法の見直しも求められている。</p> <p>子育て支援学領域では、発達に関わる個人や親子の適応上の問題について、発達障がいをはじめとした子育てにおける課題への支援(ソーシャルスキル・トレーニング:SST など)の開発と有効性評価、相互作用のアセスメント方法の評価を行っていくことで、有効な支援や有効性を規定する要因を解明していくことを目指す。</p>	
<p>研究領域名: 分子生物遺伝学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 分子生物遺伝学研究領域 TEL:06-6879-3313(片山教授), 06-6879-3220(佐藤教授) FAX:06-6879-3313(片山教授), 06-6879-3229(佐藤教授) E-mail:katayama@ugscd.osaka-u.ac.jp (片山教授) makosato@anat2.med.osaka-u.ac.jp (佐藤教授)</p>
<p>担当教員名: 片山泰一 教授、佐藤 真 教授、岡 雄一郎 講師、吉村 武 講師、三好 耕 助教、藤原悠紀 助教</p> <p>(研究内容) 近年の遺伝学的研究により、他の器質的疾患と同様、精神疾患においても発症リスクにかかわる脆弱性因子が多数報告されるようになってきた。</p> <p>本研究領域では、発達障がい、児童期統合失調症、児童期気分障がいなどの主要な児童思春期の精神疾患脆弱性遺伝子を中心に、これら脆弱性因子の機能及び脳と心の発達に及ぼす影響を解剖学的、生化学的、分子生物学的な手法を用いて検討を進め、脳の発達と、発達障がい、児童思春期の精神疾患発症メカニズムを分子レベルで解明することを目的としている。これら研究を通じて脳と心の発達を科学的基盤に基づいて理解し、発達障がいをはじめとする子どものこころの諸問題に対する予防と対策の確立を目指す。</p>	

研究領域名：高次脳機能損傷学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの分子統御機構研究センター TEL・FAX:06-6879-3863 E-mail:office@kokoro.med.osaka-u.ac.jp
担当教員名： 下野九理子 准教授、平田郁子 助教 (研究内容) 近年、発達障がいの子どもの存在とその社会的な問題が注目されるようになってきているが、その原因と病態は様々であり、一言で論じることはできない。中でもここ20-30年の医療技術の進歩に伴って、未熟児から小児までその救命率は飛躍的に改善されている。その結果、未熟児の脳室周囲白質脳症や低酸素性虚血性脳症、心疾患に伴う低酸素虚血性脳症、インフルエンザなどの感染症に伴う急性脳症時の脳損傷、脳梗塞や頭部外傷によって生じる脳損傷、てんかんなどの中枢性疾患に伴う認知障がいなど様々な原因によって引き起こされる、脳の後天性損傷による高次脳機能障がいは、発達障がいの子どもの中でかなりの割合を占めている。本研究領域では、小児の神経発達症における脳の特徴を MRI、PET などの画像や脳磁図や脳波などの生理検査と認知発達検査を組み合わせる研究し、病態の解明を目指す。これらの成果により発達時期と病態に応じた治療法の開発を目指している。	

講座名(設置大学):こころの相互認知科学(金沢大学)

【事前面談申込先】 金沢大学医薬保健系事務部学生課医学大学院係(5 研究領域共通)
 TEL:076-265-2811 FAX:076-234-4208
 E-mail:iyakuhogakusei-kafuku@adm.kanazawa-u.ac.jp

研究領域名：社会認知生物学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(藤田慶大 准教授) TEL:076-265-2458 FAX:076-234-4213 E-mail:fujita-ky@med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名： 藤田慶大 准教授 (研究内容) 現代社会が抱える深刻な問題である、「子どもの学習、社会性、行動の障がい」を心が宿る脳の機能障がいととらえて、そのメカニズムを解明するのみならず、「脳を育み機能障がいを克服する方策・診断・治療法」を提案するための教育研究を行う。研究の内容は発達障がい関連遺伝子の探索を行い、それにより、「子どもの学習、社会性、行動の障がい」に関する遺伝子を絞り込み、得られた情報を創薬へ活用していく。また、遺伝子改変技術を使い、自閉症を含む学習、社会性、行動の障がいに関連した遺伝子を改変したマウスを作成し、その行動解析を行うことにより、自閉症関連モデルマウス作成法を確立する。さらに、それらの遺伝子改変動物の脳神経関連分子や脳神経機能の異常を分子イメージング技術を用いて、可視化することにより、新たな画像診断法の確立を目指すと共に脳神経機能の異常のメカニズムを解明し、治療法の開発に繋げる。	
研究領域名：コミュニケーション支援学	【研究内容に関する問い合わせ】 コミュニケーション支援学研究領域(小林宏明 教授) TEL:076-264-5513 FAX:076-264-5510 E-mail:kobah@ed.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名： 小林宏明 教授、荒木友希子 教授、吉村優子 准教授、田中早苗 助教 (研究内容) 親子間、仲間間、教師—生徒間などのコミュニケーションは、心についての理解、世界についての概念的知識、文法や語彙のシステム、推論や記憶、感情の表出と受容など多様な能力を、総合的に活用することで成り立っている。また、それは言語を含むコミュニケーションのしかたそのもののみならず、社会文化的な慣習、出来事の社会的意味を理解し、確実な相互理解の手法と相互協調を学ぶことに決定的に関与している。発達障がいのある子どもたちは、コミュニケーションに関与する多様な要因の一部あるいは多数に障がいがあり、母子、家族、園や学校、地域などあらゆる場での社会的な学びに困難を示し、それがかれらの社会適応を脅かすのみならず、安定した人格形成をも妨げかねない。本領域は、そうしたコミュニケーションの障がいの発現機構の解明と、子どもと大人あるいは子ども同士のコミュニケーション不全への介入技法の開発をめざす。	

研究領域名：高次脳機能学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター（池田尊司 准教授） TEL:076-265-2856 FAX:076-234-4213 E-mail:tikeda @med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名：池田尊司 准教授 (研究内容) ニューロイメージング技術を活用して、高次認知機能と脳神経系の活動あるいは構造(形態)との関連性を探索することが本領域の目標である。脳磁図(MEG)、磁気共鳴画像法(MRI)、機能的 MRI(fMRI)、脳波(EEG)などの計測手法を中心に、行動観察および生理指標を組み合わせて、視覚・聴覚・記憶・情動・対人相互作用などの脳機能の発達における新しい知見をもたらす研究を推進する。そのなかで、1) 脳機能の発達を、MEG や fMRI を用いて明らかにする 2) 典型的な発達過程にある人や発達障がいのある人の脳神経構造や容積から機能的な差異を検証するなどのテーマに取り組んでいる。	
研究領域名：協調運動障害学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(横山 茂 教授) TEL:076-265-2458 FAX:076-234-4213 E-mail:childdev@med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名：横山 茂 教授、堀家慎一 准教授 (研究内容) 発達障がいを抱える人たちでは、手足など個々の機能に異常がないにもかかわらず、全身性の運動、手先等を使う微細運動に「不器用さ」が頻繁に認められる。このような発達性協調運動障がいが生じる機序には不明な点が多く、原始反射の正常な消失の遅延、神経興奮伝達。感覚統合の異常など様々な原因が推測されている。本研究領域では、大脳から脊髄に至る部位・神経経路が担う運動機能、大脳の連合機能、脳の左右差、大脳半球間連携など、協調運動障がいの研究に必要な基礎知識を学び、分子・細胞・個体レベルの多様な研究方法を取り入れながら新しい知見が得られるように努める。	
研究領域名：社会神経科学	【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(菊知 充 教授) TEL:076-265-2856 FAX:076-234-4213 E-mail:childdev@med.kanazawa-u.ac.jp
担当教員名：菊知 充 教授、廣澤 徹 准教授、植田峰悠 助教 (研究内容) 人同士の相互作用と社会的意思決定のプロセスを、ニューロイメージング技術等を用いた神経科学と、哲学・心理学・社会学など人文社会科学の両方の観点から統合的に解明する、革新的な研究に挑戦しうる人材を育成する。そこでは、自閉症を代表とする発達障がいを生み出す生物学的要因と社会的要因との関連、自閉症脳と非自閉症脳のインタラクション、脳機能の個人差を媒介とする発達障がいと社会とのかかわり、人間の社会的行動における合理性－非合理性問題、社会経済行動と脳の関連、薬物の脳内作用のこれらに対する影響、および脳機能のエンハンスメントと社会の関連などの解明に取り組む。これらの成熟した脳(大人)と成長途上の脳(子ども)とでの違いもあわせて追究する。したがって本領域の研究は、金沢校の社会認知生物学研究領域、コミュニケーション支援学研究領域、高次脳機能学研究領域との密接な連携のもとに行うこととなる。	

講座名(設置大学):こころの発達健康科学(浜松医科大学)

【事前面談申込先】 浜松医科大学入試課入学試験係(3研究領域共通)
 TEL:053-435-2205 FAX:053-433-7290
 E-mail:nyushi@hama-med.ac.jp

<p>研究領域名: 画像生物学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(岩淵俊樹 講師) TEL:053-435-2331 FAX:053-435-2291 E-mail:iwabuchi@hama-med.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 尾内康臣 教授(兼)、山末英典 教授(兼)、岩淵俊樹 講師、横倉正倫 助教(兼)、原田妙子 助教、 角谷基文 助教、平石博敏 助教(兼)、涌澤圭介 客員准教授</p> <p>(研究内容) fMRI(機能的核磁気共鳴画像法)や PET(陽電子放出型断層撮影)をはじめとする機能画像法は生体情報を非侵襲的かつ客観的に描出できる優れた特性を持ち、さまざまな病態の診断や治療効果判定の手段として広く普及している。画像生物学では、これらの生体イメージング手法の対象となる脳の機能について学ぶとともに、イメージングによるデータの取得、処理、解析および解釈の方法を習得する。その上で神経発達症および小児神経発達の研究におけるイメージング手法の活用について学習する。</p>	
<p>研究領域名: 社会支援学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(土屋賢治 教授) TEL:053-435-2331 FAX:053-435-2291 E-mail:tsuchiya@hama-med.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 土屋賢治 教授、千住 淳 教授、高貝 就 教授(兼)、奥村明美 助教、川上澄香 助教、辻井正次 客員教授、 黒田美保 客員教授、高橋長秀 客員准教授</p> <p>(研究内容) 発達障がい児・者の支援者は、障がいの特性を正しく理解し、個々の発達段階に応じた適切な支援を選び、実践することがつとめである。社会支援学では、子どもから成人にいたる発達過程の理解に基づいた支援、障がい児・者のおかれた環境に即した支援を学ぶ。また、支援する側への支援(支援者支援)を通して、支援方策の多面性を学ぶ。さらに、医学的診断を含めたアセスメント法、個別支援プログラム作成の仕方、実施方法、効果評価法について学習するとともに、近年の支援方策のトレンドや行政施策との連携についても学ぶ。</p>	
<p>研究領域名: 疫学統計学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(西村倫子 講師) TEL:053-435-2331 FAX:053-435-2291 E-mail:tomoko.n@hama-med.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 西村倫子 講師、モハメド・シャフィウル・ラハマン 講師、桑原 斉 客員教授</p> <p>(研究内容) 人の発達や行動を研究対象とする場合、発達や行動のどの側面に注目するか、それをどのように客観的に測量するか、対象をいかに的確にサンプリングするか、得られた測定値からどんな科学的事実が演繹されるか、また、研究仮説が科学的に立証されたかなど、順次マクロからマイクロに向かう視座を必要とする。疫学統計学では、このような視座を開くため、科学的根拠に基づいた研究デザインの立案、データ解釈の方法といった研究技術論と、統計学的解析法について学習する。</p>	

講座名(設置大学):こころの認知行動科学(千葉大学)

【事前面談申込先】 千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係(3研究領域共通)

TEL:043-226-2009 FAX:043-226-2857

E-mail:sah5234@office.chiba-u.jp

<p>研究領域名: 認知行動療法学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達教育研究センター(大島郁葉 教授) TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588 E-mail:f_oshima@chiba-u.jp</p>
<p>担当教員名: 伊藤絵美 教授(兼)、大島郁葉 教授、沼田法子 講師、関 陽一 助教、田口佳代子 助教(兼)、加藤奈子 助教(兼)</p> <p>(研究内容) 子どもの不安、抑うつ問題は慢性化して、青年期、成人期まで遷延することが知られている。不安症(パニック症、社交不安症など)、強迫症、PTSD、うつ病、神経性過食症、拒食症、自閉スペクトラム症などの心の病気に対する効果が国際的に実証されている心理療法である認知行動療法の専門家の数は我が国においては絶対的に不足している。本講座では認知行動療法を実践できる人材の育成、およびその有効性をさらに高めるための研究を行う。</p>	
<p>研究領域名: メンタルヘルス支援学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達教育研究センター(清水栄司 教授) TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588 E-mail:ejji@faculty.chiba-u.jp</p>
<p>担当教員名: 清水栄司 教授(兼)、濱田洋通 教授(兼)、花澤 寿 教授(兼)、杉田克生 教授(兼)、堀清一郎 教授(兼)、大溪俊幸 教授、浦尾悠子 講師</p> <p>(研究内容) 児童思春期には各発達段階においてそれぞれ特徴的な心の発達課題が存在すると考えられている。不安や抑うつ、摂食障がい、発達障がいなどのメンタルヘルス(心の健康)の問題について発達課題に応じた特性を理解し、早期発見、早期介入の観点から、個人あるいは集団に対する認知行動療法も含めて、どのような支援を現場で行うことができるか研究する。</p>	
<p>研究領域名: 認知行動脳科学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達教育研究センター(平野好幸 教授) TEL:043-226-2975 FAX:043-226-8588 E-mail:hirano@chiba-u.jp</p>
<p>担当教員名: 平野好幸 教授、小島隆行 客員教授(兼)、松澤大輔 准教授(兼)、廣瀬 素久 助教(兼)、久能 勝 助教(兼)、大田淳子 助教(兼)、ブーサル チャタクリ リトゥ 助教(兼)</p> <p>(研究内容) 自閉スペクトラム症、不安症(パニック症、社交不安症、心的外傷後ストレス障がいなど)、うつ病、強迫症、摂食障がい(神経性やせ症、神経性過食症、過食性障がい)などの精神疾患における認知、行動、注意、感情などの高次脳機能の歪み(バイアス)に関して、非侵襲的脳機能検査や認知機能検査を用いた研究を行う。</p>	

講座名(設置大学):こころの形成発達科学(福井大学)

【事前面談申込先】 福井大学松岡キャンパス学務課入試担当(3 研究領域共通)

TEL:0776-61-8246 FAX:0776-61-8163

E-mail:m-nyushi@ml.u-fukui.ac.jp

<p>研究領域名: 情動認知発達学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(水野賀史 准教授) TEL:0776-61-3111(ex.2431) FAX:0776-61-8707 E-mail:mizunoy@u-fukui.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 水野賀史 准教授、濱谷沙世 助教、山下雅俊 助教</p> <p>(研究内容) 本領域は、主にMRIを用いてヒトの脳の構造や機能を可視化し、注意欠如多動症(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)などの発達障がい児の神経基盤を明らかにすると共に、臨床に資するバイオマーカーの開発を目的として研究を行っている。また、虐待による愛着障がい、心的外傷後ストレス障がいは、ADHD、ASD のような発達障がいと密接に関連しており、その病態解明や、治療法、養育者支援法の確立に向けた研究にも取り組んでいる。 このような研究を遂行するためには、ひとつの分野に限るのではなく、小児発達学、精神医学、放射線医学、心理学、神経科学、情報科学、教育学などの幅広い分野における高度な知識、技術が必要となる。そのため、様々な分野、背景をもった研究者や、福井大学内のみならず、国内外の他の研究機関と共同研究を行うことを積極的に推進している。</p>	
<p>研究領域名: 発達環境支援学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(友田明美 教授) TEL:0776-61-8677 FAX:0776-61-8678 E-mail:atomoda@u-fukui.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 友田明美 教授、藤澤隆史 准教授</p> <p>(研究内容) 子どもたちのこころの健康の維持は、21 世紀の最も大きな課題の一つとして注目されつつある。近年、児童虐待や子どもの心身症、発達障がいなど、いわゆる“こころ”の問題解決への社会的要請が強まっている。児童精神科領域とされるこれらの問題は、実際には精神科や小児科の合間にあり、未解決の問題が山積している。特に昨今、医療機関への受診が急増している発達障がいに対しては、その実態と要因を探ることは急務である。 子どものこころの発達は、先天的・後天的な様々な要因が複雑に絡み合う中で規定されているが、その中で、我々は子どもの脳に関わる影響に注目している。ヒトの脳を可視化する技術が進歩し、非日常的または日常的な様々なトラウマ体験の生物学的影響が脳にもたらされることが解明されてきた。 “こころ”の問題解決を実現するために、脳機能イメージングや神経心理学的手法を駆使した、脳科学を基盤とする学際的な研究を推進する。発達障がいの生物学的なリスク要因を早い段階で認識すれば、予防や治療へつながる可能性が高まる。脳が外界環境の強い刺激により影響を受けるという事実を前提に、臨床医・基礎研究者・地域が連携する中で研究を進め、教育・療育方法の新たな開発を進める。さらに、ICT 端末が与える子どもへのストレスなど、環境が小児のこころの発達に及ぼす影響についても多面的な研究を展開し、難治とされる脳機能疾患の治療・予防を可能にするために取り組む。</p>	
<p>研究領域名: 脳機能発達学</p>	<p>【研究内容に関する問い合わせ】 子どものこころの発達研究センター(松崎秀夫 教授) TEL:0776-61-8803 FAX:0776-61-8804 E-mail:matsuzah@u-fukui.ac.jp</p>
<p>担当教員名: 松崎秀夫 教授、謝 敏かく 助教、國石 洋 助教</p> <p>(研究内容) 分子・細胞レベルでの解析を中心に脳機能の発達の仕組みの解明、ひいては行動レベルの理解を目指した研究を展開する。分子や細胞レベルのメカニズム解明が進むと、脳の働きを具体的に理解できるようになる。そのため「子どものこころの諸問題」の仕組みの破綻として捉えることで、発達期特有の疾病もしくは障がいの新たな理解や従来にない診療手段の開発に結びつくことが期待される。本研究領域では、以下の研究のテーマで研究を遂行する。 (1) 自閉症診療に応用可能な生物学的マーカーの探索研究。自閉症者から得られる血液検体や自閉症者の脳画像の所見を基に、疾患特異性のある体内分子を探索し、診療への応用を検討する。 (2) モデル動物を用いた自閉症の病態研究。(1)での所見を再現するモデル動物を作製して、病態メカニズムの理解を進める。主に自閉症にみられる血中エネルギー代謝・脳内セロトニン伝達系の特異的な異常に焦点を当てた研究を展開している。</p>	